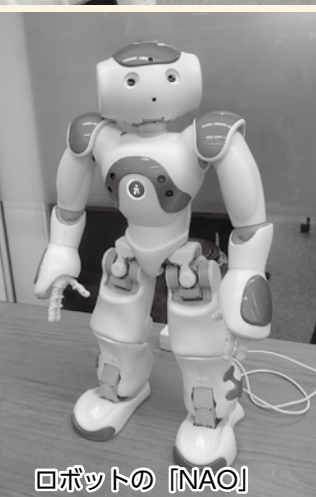
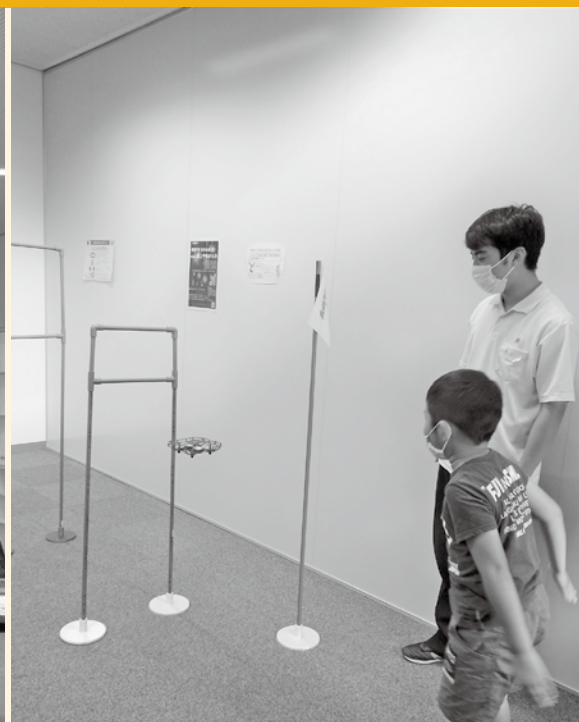


生涯学習やまがた



図書館1階「アクティブラーニングルーム」



ロボットの「NAO」



CONTENTS

② 特集

学びの場の多様性（多様な学習支援）（安藤 耕己氏）

⑤ あなた やまがた たからびと③

鈴木 左千夫さん（山形市）

⑥ このまちに注目！

非営利団体みんなの居場所づくり『ぱすてる』
最上町教育委員会

⑦ 事業報告

人と人がつながる地域支え合い活動マッチングセミナー、
島本理生&村田沙耶香オンライントークショー、地域学交流集会

⑧ Information

山形県生涯学習センター助成制度のご案内、第8回写真コンテストU-18応募作品展
遊学館ブックス最新刊好評発売中

遊学の風景 / 県立図書館アクティブラーニングルーム

山形工業高等学校

「ドローンプログラミング教室」

山形県立図書館（遊学館1階）のアクティブラーニングルームは、小・中・高校生の探究型学習や大学生の研究発表など、様々な用途に応じた学習スペースとして利用されています。その中でも、山形工業高等学校情報技術科による小学生対象のドローンプログラミング教室は大人気！Scratchというプログラミングソフトを使い、ゲームやドローンのプログラミング体験ができます。高校生の熱心な指導と小学生の集中力で、会場は静かな熱気に包まれます。ドローンをもっとこうやって飛ばしたい！と挑戦する小学生に、高校生が丁寧に寄り添う姿がとても印象的でした。

SDGsの目標の一つに「質の高い教育をみんなに」が掲げられています。多様性の時代と言われる今、これからの学びのあり方とは？今回は学びのセーフティネットである「フリースクール」や「夜間中学」の現状と今後の課題について、安藤耕己氏より寄稿していただきました。



「学びの場の多様性（多様な学習支援）」

山形大学教授 安藤 耕己氏
あんどう こうき

1.はじめに

SDGsの中で4番目に掲げられているのが「質の高い教育をみんなに」であり、その附言には「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」とある¹。このように、「質の高い教育」の機会は子どもから高齢者まで全てに保障されなければならない。

本稿では関わる取り組みの中でも学校とその周縁に展開しつつある「学び」の保障について、特に不登校支援における「学校に行かなくともよい」対応、さらには学齢を過ぎた人びとも義務教育修了あるいは同程度の学力を得る機会を保障する、公立夜間中学校・自主夜間中学をめぐる最近の施策

および諸動向を示し、今後の課題を共有するものとしての。

2.不登校の現状（全国および山形県）とその対応をめぐって

まず是不登校の現状について、全国および県内の状況を確認したい。令和2年度の全国での小学校の不登校児童数は63,350人、中学校での不登校生徒数は132,777人と、それぞれ過去最多を記録した。山形県も小中学校では344人、中学校では882人とやはりそれぞれ過去最多の値を示している²。

さて、現在の不登校対応に際して、「学校に行かなくともよい」ということが公的に認められていることをご存じだろうか。保護者だけではなく、学

校教育関係者にも未だこのことは共有されていないことをさまざまな場で感じる。

この「学校に行かなくともよい」というフレーズの根拠は、まずは

2016年12月に制定・公布され、翌2017年2月より施行された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（以下、教育機会確保法とする）に求められる。同法は義務教育段階の教育機会確保に関する基本理念を定め、国および地方公共団体の責務を明確にし、教育機会確保等に関する施策を総合的に推進することを目的としている。また同法は学校以外の場における学習も選択肢として認めつつ不登校児童生徒への教育の機会確保及びその水準の保障と夜間等の授業を行う学校（後述する公立夜間中学校など）への就学支援を行うことを基本理念として掲げる（第3条）。そして学校および自治体

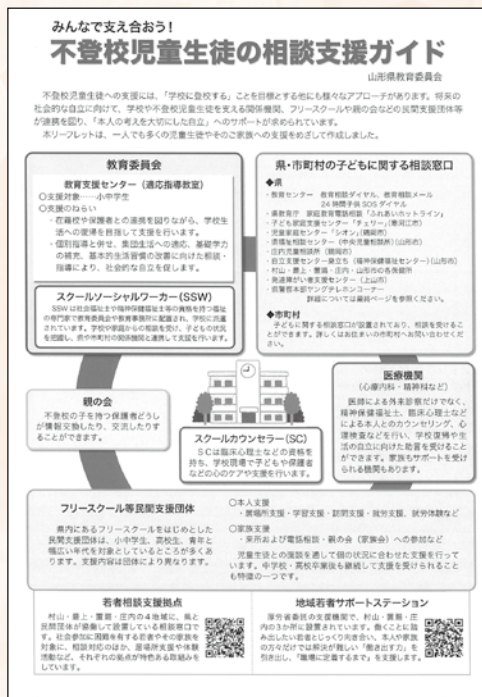
での民間組織・団体による学習支援を学校相当のものとして明確に位置づけた。

なお、ここには学校外の施設・民間機関等で学ぶことも指導要録上、出席として認められることが前提としてある。このことは既に1992年から認められているが、従来は「学校復帰」を前提とし「校長判断」で指導要録上出席扱いにすることが認められていた。教育機会確保法はこの対応の法的根拠を明確にしたが、さらに同法の施行を受けて2020年10月に発出された文部科学省初等中等教育局長通知「不登校児童生徒への支援の在り方につい

安藤 耕己氏 プロフィール



山形大学地域教育文化学部教授。山形県社会教育委員、山形県社会教育連絡協議会会長。1972年岩手県生まれ。岩手県立高校教員を経て筑波大学大学院博士課程教育学研究科に編入し社会教育学を学ぶ。同研究科退学後、筑波大学助手、吉備国際大学准教授等を経て2010年に山形大学着任。2019年より現職。博士(教育学)。専攻は社会教育学、生涯学習論。関連業績として「若者支援と居場所づくり」(手打明敏・上田孝典編著『社会教育・生涯学習』ミネルヴァ書房、2019)など。



出典：「不登校児童生徒の相談支援ガイド」
山形県教育委員会

前掲の「不登校児童生徒の相談支援ガイド」に紹介されている。しかし、明確に「フリースクール」を看板に掲げるのは数団体に限られるのが現

て」では冒頭に「不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではな」と明言された上で、指導要録上の出席扱いについても、やはり校長判断にはなっているものの、1992年通知にあった「学校復帰を前提」とする条件が緩和されている³。

その他、諸条件があるものの、すなわち義務教育段階であっても児童生徒は、必ずしも「学校に行かなくともよい」のである。この点を看過して学校復帰のみを唯一のゴールとする不登校における指導・支援体制が県内では未だに続いている感がある。2020年

通知の内容に関する十分な理解を求め

では学校外のどこで学ぶことができるのか。まずは自治体が設置しているのが教育支援センター（適応教室）である。昨年4月に山形県教育委員会が作成した「不登校児童生徒の相談支援ガイド⁴」によると、県内では2020年度時点で24自治体が設置している⁵。主に学校復帰を前提とした支援である。

そして教育機会確保法や同法に基づく2020年通知においても期待されるのが、民間によって運営されるフリースクールである。県内でのフリースクール等については、全てを網羅しているわけではないが、前掲の「不登

状である⁶。これには財政的な課題に起因するところも大きい。

なお、これらの団体の「個性」やねらいも異なるが、そのことは学校関係者や利用者がそれぞれ個々にアプローチしていかないとわからず、トラブルも生じかねない。これら団体の特徴を把握した相談窓口等が必要かと思われる。従前の心理専門職を対応者とする教育相談に加え、教育事務所等での対応（あるいは教育事務所単位でのNP O等への対応依頼）が望まれる。またスクールソーシャルワーカー⁷が今後十分に配置されたときには、適応教室とフリースクールの連携も含め、同職のコーディネート機能が発揮されることが期待される。

3.公立夜間中学校・自主夜間中学
の取り組みをめぐって

また、教育機会確保法において、その存在がようやく法的な根拠を確立したのが、公立夜間中学校である。同法では第3条4項には、義務教育修了程度の学力を得る機会が誰に対しても保障されることが理念として示されて

いる。公立夜間中学校は当初、戦後の混乱の中、生活困窮などの理由から昼間に就労や家事手伝い等を行う必要があった学齢生徒のため、二部学級として公立中学校に付設されたものであった。⁸当初は不就学生徒を、1970年代からは引揚者やニューカマーに対する日本語教育の場としての役割を担いつつ、不登校経験のある学齢超過者や形式卒業者⁹を受け入れつつ、現在に至っている。さらに学齢期にある生徒を夜間部に転籍させることも可能であり、不登校生徒の新たな学びの場としても期待される。おおよそさまざまな年齢や立場、多様な国籍の人びとが教室には混在している¹⁰。また、公立夜間中学校が未設置であるか、当初は設置されたが後に廃止された地域では対象となる人びとへの教育支援のため自主夜間中学が組織されている。

公立夜間中学校は2021年度では全国で36校があり、さらに設置の動きは広がっている。国の後押しも続く。近いところでは2021年1月25日の第204回国会衆議院予算委員会において、菅首相（当時）が今後5年間で



「仙台自主夜間中学の授業風景」(写真提供：仙台自主夜間中学)

全ての都道府県、指定都市に夜間中学校が少なくとも一つ設置されることを

目指す旨の答弁をしている¹⁾。

しかるに本県の対応であるが、2019年度に県教委がニーズ調査を実施している。調査票1,255通をチラシとともに各市町村の福祉部局にある相談窓口や教育委員会、若者相談支援に関わるNPO法人や国際交流協会などに配布したが、回答はわずか42通であったという¹²⁾。ゆえにニーズがないものと判断され、設置の動きは鈍い。もちろん、読み書きができない、あるいは義務教育を終えないまま学齢期を過ぎたことは匿名であっても秘すのが普通であろう。あとはこれらを必要とする人たちの目にどれだけ留まったのか、また、どれだけその調査票の意味が理解されたのかはわからない。

東北でも福島市が2025年度に、仙台市が2024年度から公立夜間中学校を開設する見込みを示している。そしてこれらは自主夜間中学の活動(福島駅前自主夜間中学、仙台自主夜間中学)が広がり、その意義が市民に広く認められてのことと理解している。本県でも民間で夜間の学びの場を設置する動きがようやく見えてきているが、

コロナ禍ゆえにその歩みはなかなか進まないことが残念である。これらの取り組みは可視化されて始めて理解される。

上記2校を含め、2021年12月現在、文部科学省公表の情報¹³⁾では、今後新たに公立夜間中学校15校が開設計定である。なお、近年の傾向は「県立」中学校とするものである。特に本年度開校された徳島県立しらさぎ中学校は従前からある定時制高校単独校である県立徳島中央高校に併設されたものである。当初予想される利用規模や通学者の交通の便等を考えるに、本県も同様の対応をするのがベターと考える。

4. おわりに

「質の高い教育をみんなに」。それもさまざまな方法で、さまざまなペースで。結果、それはわれわれの社会や生活にポジティブに還元される。本稿の内容は今後ともみなさんと認識を深めていきたい。

1 外務省「持続可能な開発目標(SDGs)と日本の取組」(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf) 最終閲覧日2022年1月22日。

2 なお、不登校の定義は、「年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒」のうち、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く)」である(文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査用語の解説」(https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/shidou/yougo/1267642.htm) 最終閲覧日2022年1月26日)。

3 山下慶洋「夜間中学の設置・充実に向けた最近の動き」、参議院事務局編・発行「立法と調査」No.439(2021)。

4 <https://www.pref.yamagata.jp/documents/16978/soudanseigado.pdf> 最終閲覧日2022年1月26日。

5 同右。

6 また、学校に行かず家庭で学ぶ「ホームスクーリング」も日本においては不登校としての扱いになる。このことは別稿改めたい。

7 教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技術を有する専門家、学校や家庭からの相談を受け、子どもの状況を把握し、県や市町村の関係機関と連携して支援を行う。

8 大和多雅絵「戦後夜間中学の歴史―学齢超過者の教育を受ける権利をめぐる―」六花書房、2017、pp.21-22。

9 不登校状況のまま学齢を超過し形式的に卒業しているが、実質的に義務教育修了の学力が備わっていない人びとを指す。

10 2020年1月に文部科学省により実施された「令和元年度夜間中学校等に関する実態調査」(https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxtsyoto02-100003094_111.pdf) 最終閲覧日2022年1月20日。以下は、全国33校(当時)の夜間中学校の生徒中、義務教育未修了者は1.4%、日本国籍を有しない者が80.0%となっている。現状としては主にアジア系の外国籍の生徒が8割を占め、年齢的には若者から高齢者までが広く在籍している。

11 衆議院「第204回国会衆議院予算委員会議録第2号」(https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kaijiroku.nsf/html/kaijiroku/001820420210125002.htm) 最終閲覧日2022年1月26日。

12 「第189回山形県社会教育委員の会議 議事録(令和2年9月17日)」(<https://www.pref.yamagata.jp/documents/5003189gijikaiyoushikaikyouitakuin.pdf>) 最終閲覧日2022年1月26日。

13 文部科学省「夜間中学の設置・検討状況一覧(令和3年12月文部科学省調べ)」(https://www.mext.go.jp/content/20220120-mxt_syto02-100003094-1-1.pdf) 最終閲覧日2022年1月26日。

あなた やまがた たからびと

interview 鈴木 左千夫さん

「やまがたIIK」不登校・ひきこもり応援団体代表、山形公立夜間中学を考える発起人、やまがた教育の語りべ(山形市)

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は、小学校長退職後に教育相談員を務め、現在、「やまがた^{アイアイケー}IIK※」不登校・ひきこもり応援団体代表、山形公立夜間中学を考える発起人、やまがた教育の語りべ等として活動されている鈴木左千夫さんにお話を伺います。



「人々が何を考え世の中がどんな動きをしているのか、いつも注視しています！何歳になっても知らないことに出会えるから、学びは楽しい！」と鈴木さん。地域で子どもを育てるのは地域の本来の役割、人生経験豊かな地域の人たちに、もっと若い人を育ててほしいと、常々思っているとか。

17年前、校長をしていた現職時代に「不登校ひきこもり親の会」に参加したことがきっかけです。不登校・ひきこもりが多いと感じて、子どもの困難な状況に対して自分ができることは何かと勉強を始めました。退職後は山形市と南陽市の教育相談室に勤務しました。教育相談は主に不登校相談で、不登校の子と親御さんが相談に来ます。相談室では、それぞれの子どもに合わせて、遊ばせたり、ほったらかしたり、教えたりします。そうすると、子どもは自然に元気を取り戻して、勉強し始めるんです。子どもたちは遊びの中で学びますし、ほったらかしという見守りも大事なんですよ。相談室退職後も、その延長で活動していて、電話相談やメール相談等を受けています。不登校・ひきこもり応援団活動は、サロンのような活動で、親の会や復活した青年の

活動のきっかけは？

集まりを後方支援しています。それから、やまがた教育の語りべとして、学校や公民館等で、保護者や祖父母、民生委員・児童委員さん等に、現在の教育や子どもたちの状況などを講演することも多いですね。不登校やひきこもりは誰でもなりうるので、理解する人を増やしていくことが自分の役割だと思っています。

活動で学んだり、感じていることは？

いろいろな相談を受けて感じることは、とにかくみんな一生懸命に生きているということ。どこかでちよつと掛け違ったりするけど、私はそれを掛け直す役割だと思っています。不登校やひきこもりの子どもたちの心には何らかの重荷があったり空白があったりします。それをいかに小さくしていくか埋めていくか。子どもの休養が最優先で大事なものは無理をしないこと。元気になるば子どもの中に解決方法があるので、それを引き出してあげればよい。日本人はとにかく学校に行かなければいけないと頭に刷り込まれていて、親もプレッシャーをかけてしましますが、長い人生の中でいずれ学校は終わり、その後の生き方が大切になります。同世代で上手くいかないことも不登校の要因として多いですが、社会には同世代だけで働く場所などありません。そう考えると学校は特殊な場です。今はいろいろな道がありますし、学校に行くか行かないかの問題ではなく、生き方の問題として、何がその子どもを成長させるのかという視点で、子どもの良いところをたくさん発見して理解してあげることが大事です。将来について悩むのがちですが、

これからの目標は？

皆さん自分が思っていた将来と今は違いますよね？学校に行ったら幸せなんですか？幸せという次元と学校の成績という次元は違います。不登校・ひきこもりになっても幸せだったと言えるように応援してあげたいですね。

関わりを持った子や青年がどうすれば自分らしく生きられるのか、どんな社会になればいいのかを考え続けていますが、まずは山形にも夜間中学を作りたいと思っています。不登校やひきこもりは、自己責任ではなく、家庭や学校、社会全体の問題です。義務教育で二定の学力を持つことは大事ですが、制度上、課程を修了しないまま卒業する形式卒業の子もたちが山形にもたくさんいます。卒業資格を得るためでなく、自分の学ぶ力をつけるための場として、学び直しの機会を保障する夜間中学を公^{おおやけ}が作るべきです。以前、夜間中学に関する映画上映会に県議や市議、マスコミ含め70名程集まりました。関心は高いのですが、高齢者中心の活動のため、コロナで活動を中断している状況です。国は各都道府県に1校は夜間中学を設置しようとして推進しているので、後は皆さんの後押しが必要です。子どもたちが光を見ることができるよう門戸を開いてあげたい、いつでも学べるチャンスがあつて、やりたいことを実現できる世の中であつてほしい！私が生きているうちに万歳したいな。



鈴木さんのブログ
「遊育のとびら」
<http://terakoya358.blog.fc2.com/>

このまちに注目！



地域の取り組みを
紹介します

南陽市

非営利団体 みんなの居場所づくり『ばすてる』
みんなの居場所『にじ』

子どもからお年寄りまでみんなが集えるおうち

■ 活動内容 ■



学習支援の様子

子どもからお年寄り、障がいの有無を問わず、地域の誰もが気軽に集い、触れ合いを通して生きがいや仲間づくりの輪を広げることを目的に令和3年7月に団体設立。誰もが安心して、心地よく過ごせる居場所として地域に開放しています。グループ集会にもご利用頂き、時折立ち寄って子どもたちに将棋を伝授して下さる方もいらっしゃいます。地域の方々との交流を通して子どもたちの健やかな成長を願い、子ども食堂と児童預かりを行い、その中で学習支援も行っています。

子どもからお年寄り、障がいの有無を問わず、地域の誰もが気軽に集い、触れ合いを通して生きがいや仲間づくりの輪を広

■ ここが大変 ■

一つひとつの活動に地域の方々の協力が不可欠。特に初回の子ども食堂の際には、地域の方々が知人の方々に声を掛けてくださり、10名以上のボランティアのご協力を頂くことができました。

■ ここがうまくいった ■

子ども食堂では、経験豊かな世代が子どもたちに調理の仕方を伝授して下さいます。保護者の方も含めた多世代交流で温かい雰囲気になっています。



子ども食堂

参加者Voice

当初、学習に消極的だった子ども、仲間と一緒に活動していくうちに学習に集中できるようになりました。居場所を通して成長した姿に喜んでいます。(学習支援 60代男性)

最上町

最上町教育委員会
地域未来塾「もがみサポート塾」

地域につくられた学校の応援団！

■ 活動内容 ■



放課後自主学習会の様子

平成20年度に最上町教育委員会が国の学校支援地域本部事業へ採択されたことにより、それ以降、最上町立最上中学校で活動を続けています。学校運営を地域ぐるみで支援することを目指していますが、その背景には地域の教育力の低下と教員の業務量増大があります。もがみサポート塾は地域の力を活かしてこれらの問題を解決しようとするものです。現在、子どもたちが自主的に勉強する「放課後自主学習会」、各学年月1回の読み聞かせ、図書の活用促進のための図書コーディネーターの活動などを行っています。

平成20年度に最上町教育委員会が国の学校支援地域本部事業へ採択されたことにより、それ以降、最上町立最上中学校で活動

■ ここが大変 ■

学校現場で要望される具体的な課題の発掘と、その課題を地域の力とどう結び付けるかの試行錯誤でした。自主学習会ほかすべてを支援ボランティアの協力で運営していることもあり、地域人材の確保が課題です。

■ ここがうまくいった ■

放課後の自主学習会は自由参加のため、本当に支援が必要な子どもに参加してもらうことが課題でした。そのために学校の教室で、直接、参加要請もしました。読み聞かせを含めて、すべて地域のボランティアの支援で実現しています。

参加者Voice

サポート塾は生徒一人ひとりの勉強スタイルに合わせて、講義や学習スペースを用意してくれています。地域の方々の応援を近くに感じ、頑張る原動力になっています。(放課後自主学習会参加 3年生)

山形県生涯学習センター 事業報告

人と人がつながる
地域支え合い活動マッチングセミナー12月4日(土) 子育て交流施設テオトル
12月5日(日) 遊学館

高齢社会の生きがいづくりや地域の支え合い活動を実践する団体と、活動に関心のある方々が一堂に会し、地域で安心して暮らしていく秘訣、

仲間づくりのコツを学び交流するセミナーを開催!

冒頭、講師の廣瀬隆人氏より、コロナでつながりが減っている現状や地域で幸せに生きていくためにはつながりの回復が必要であること、つながっていくためにはたくさんの無駄話が資源であることを学び、その後、テンポのよいインタビュー形式で活動団体の活動内容やその魅力を学びました! 続く、交流の広場で

は、各団体の紹介ブースに参加者が訪れ交流しました。団体と参加者・参加者同士の、双方向で熱心な情報交換をしたり、自己紹介から思わぬつながりを発見して盛り上がる様子も多々見られました! 最後に、栃木県の団体の活動事例から、人と人との付き合い方や活動の進め方等のヒントを学び、閉会しました!



参加者の声

- ボランティアを大げさな思わず、自然な誘い方、人のつながりで輪を広げていくことが大切だと思いました。
- 直接団体のお話が聞けてためになりました。少人数のやりとりで、聞きたいことが聞けて良かった!

島本理生&村田沙耶香オンライントークショー
ー創作と変化ー

11月20日(土) 遊学館&オンライン



左より村田氏、島本氏、瀧井氏

昨年度はコロナウイルス感染拡大のため中止となった本トークショーですが、10回目となる今年度は、講師に直木賞作家の島本理生氏と芥川賞作家の村田沙耶香氏、そして司会にフリーライターの瀧井朝世氏をお迎えし開催することができました。出演者は東京からのリモートでの出演となりましたが、人気女流作家お二人のトー

クショーということもあり、会場視聴者約40名、オンライン視聴者約90名が参加。オンラインでは日本各地だけではなく海外からの参加もありました。「創作と変化」をテーマに、お二人の創作活動のスタンスの違いや物語の作り方の裏側、お二人の関係性等にも触れられ、また後半には視聴者からの質問にも丁寧にお答えいただき、あっという間の2時間でした。

参加者の声

- 島本先生、村田先生のそれぞれの視点で感じている、意識していること、無意識だけど見えていることもあり、とてもいい時間を過ごすことができました。

地域学交流集会 地域づくりの進め方
～地元の高등학교と連携した地域づくり～

11月7日(日) 遊学館&オンライン



地域学や地域づくり実践団体等が集い学ぶ交流集会。今回は地元の高등학교と地域や行政との連携・協働、そして地域と学校のかけはしとなる青年の活動を学びました。はじめに、コーディネーター・講師の廣瀬隆人氏に「地域づくり」についてお話いただき、続く実践報告では南陽高校市役所部にSNSを活用した地域の情報発信やジェラート開発について、南陽青年

団の高橋宏美氏に青年団活動や高校生と地域をつなげる具体的な内容についてお話いただきました。最後にコメンテーターの嶋貫憲仁氏より、地域の関係性や地元の楽しさを小さい頃から知ってもらうことが大切。そして若者たちが楽しく活動するためには行政のサポートが必要である等コメントをいただき、たくさんのヒントを得た集会となりました!

参加者の声

- 地域づくりはつながりづくり。社会教育は接着剤であるということを改めて学びました。
- 同じ高校生が地域のために具体的な計画を立て実行していて、とても刺激を受けました!



山形県生涯学習センター助成制度のご案内

県内の皆様の多様な生涯学習活動を応援しています！
是非ご利用ください！

助成事業HP

<https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/promotion/>



助 成 事 業	青少年地域学習活動 支援事業	「山形学」地域連携講座 支援事業	地域生涯学習支援事業
対 象	高校生向け	市町村・施設・団体等関係者向け	市町村・施設・団体等関係者向け
特 徴	高校生が行う地域学習や地域 づくり活動を支援します！	地域学や地域づくり活動など 地域に関する体系的な講座を 支援します！	現代的課題の解決や社会の要 請に応じた生涯学習事業を支 援します！
募 集 数	8事業	10事業	10事業
募 集 期 間 ※	4月1日～6月17日	4月1日～5月13日	
事業実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日まで		
助 成 金 額	助成の対象となる経費又は 5万円のいずれか低い額	助成対象経費の3分の2（市町村・3年以上継続で助成を受けて いる団体は2分の1）又は20万円のいずれか低い額	
助成対象経費	謝金・旅費・賃借料・印刷製本費・消耗品費など		

※交付決定事業が募集予定に達しなかった場合は二次募集を行います。

洗心庵からのお知らせ

第8回写真コンテストU-18 応募作品展

応募作品の中から今年度の入賞作品が決定しました。
下記日程で、入賞作を含めた全応募作品の展示会を
開催します。是非この機会にご覧ください。

日 時 3月22日(火)～3月31日(木)
9:00～17:00

場 所 洗心庵 多目的ホール



編 集 後 記

今年度も沢山の方のご協力により、無事に広報
紙を発行することができました。ありがとうございます。
特集のテーマは事務局で悩みな
が決めていますが、近年の生涯学習のトピック
を探っていくと、以前に比べて社会の要請に応じた学習活
動が増えていると実感しました。広報紙が皆さまの学びの
きっかけの一つとなれば幸いです。ご意見ご感想をお待ち
しております。(R)

「生涯学習やまがた」バックナンバーは
こちらから！



遊学館ブックス最新刊好評発売中！

『人々は疫病を どう乗り越えてきたか』

令和2年度「山形学」講座（全2回）の記録集。新
型コロナウイルスが猛威をふるう中、現代の医学的
見地や、これまで人々は疫病にどう向き合ってきた
のかを歴史的に振り返り、コロナ禍の今、そしてこ
れからの生き方を考えていきます。



山形県生涯学習センター（遊学
館3階）・文翔館・洗心庵、こ
まつ書店、八文字屋、戸田書店
山形店、宮脇書店天童店、山形
大学小白川キャンパス生協、
Amazonで販売中。お近くの公
立図書館でもご覧いただけます。

B6版／162頁
定価880円(税込)



▶バックナンバーはこちらからどうぞ！

<https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/publication/>

🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感
謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊
『人々は疫病をどう乗り越えてきたか』（1月発売880円）を
プレゼント！左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あ
てに【①お名前・②住所③入手場所④興味を持たれた記事
④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・
メール・FAXでご応募ください！締め切りは4月末です。

編集発行 （公財）山形県生涯学習文化財団 令和4年3月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町 1-2-36[遊学館]

TEL 023-625-6411(貸館専用TEL 023-676-7182) FAX 023-625-6415

E-mail yama@gakushubunka.jp

URL <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は20:00まで]

休 館 日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵[山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町 1-4-28

TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

休 館 日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始